

## 平成 27 年度第 3 回北海道立生涯学習推進センター運営協議会専門部会会議記録要旨

### 1 開催日時

平成 27 年 12 月 3 日（木）10：30～12：00

### 2 開催場所

札幌市中央区北 2 条西 7 丁目 1 番地 かでる 2・7（8 階）  
北海道立生涯学習推進センター創作実習室

### 3 審議等の内容

#### (1) 議事

ア 道民カレッジジュニア学生（小中学生）から一般（高校生以上）への学習単位の接続方法について

イ サーバー更新に伴う新ホームページについて

#### (2) 報告

ア 附属機関の見直しについて

### 4 出席者

- 北海道立生涯学習推進センター運営協議会専門部会委員（部会長、以下委員五十音順）  
三上部会長、宇山委員、喜多委員、楠委員、小賀委員、後藤委員、今委員
- 北海道立生涯学習推進センター職員（運営協議会事務局）  
阿部所長、柴田主幹、柴野主査、櫻井主査、久保主査、石手洗主任、吉光寺社会教育主事

### 5 審議等の概要

事務局による説明の後、委員が意見を述べた。主な発言は次のとおり。

（以下、発言順の掲載 ○委員 ●事務局）

#### (1) 議事

ア 道民カレッジジュニア学生（小中学生）から一般（高校生以上）への接続方法について

- （ジュニア学生から一般（高校生以上）への単位移行によるメリットやデメリットの文言修正や、ジュニアカレッジ生へのメッセージについて、資料 1 に基づき説明。）
- 今の説明に対して、御質問や御意見をお願いします。
- 「ジュニアカレッジ生へのメッセージ」のページは、小中学生向けだと思うのですが、「学習単位の接続方法について」のページは、誰を対象にしたものなのでしょうか。
- 保護者への説明を想定しています。
- 〈図 2〉の 150 単位取得している場合、選択単位が 34 単位取得済みとなるので、この図だけ見ると、更に選択単位を取得する必要はないという気持ちになってしまうかもしれません。学習者の意欲を高める表現があると、受けやすくなるのではないのでしょうか。

- ここに書いてあるのは、あくまでも学士などの称号を取るための最低限の単位数であって、より一層学びたくなる表現を加えたほうが良いということですね。
- はい。
- そもそも「ジュニアカレッジ生へのメッセージ」を出すことにした目的は、単位を移行する考え方について誤解のないように明確に伝える必要があるということでした。今回のメッセージを見ると、その内容よりもむしろ、ジュニアカレッジ生への勧誘が中心になっています。それについてはホームページ等にも載っていたと思うので、このメッセージの意図はどのようなところにあるのでしょうか。
- ジュニアコースで取った単位を一般コースに移行できることになったので、移行の考え方も含めて、改めて「ジュニアカレッジ生になりませんか」というメッセージとして作りました。
- ジュニア生向けのこのようなメッセージは、既にどこかにありましたか。
- パンフレットやチラシでお伝えはしていますが、ここまで内容的に詳しいものは、今まで出していません。
- 基本的にジュニア学生向けの詳しい案内は無かったので、「ジュニアコースで取得した単位は、高校生以上の一般コースに引き継がれ、これまで学んだ成果が生かされます。」と表現したのですが、説明不足の内容があれば追加したいと思います。
- 前回の意見では、単なる数合わせのように受け止められるのは良くないということだったので、単位の移行の仕組みについて、提供側の意図が伝わるかどうか判断してください。いかがでしょうか。
- 印象としては、これだけでは意図が伝わりにくいのではないかという気がします。次のページの1番と組み合わせて読めば分かるということだと思うのですが、ジュニアで取得した単位が生かされるようにしたのは、学びを応援する意図からだということが分かるようにしたほうが、前回の議論を踏まえたものになると思います。
- 5つ目の項目にそのニュアンスを含めているのですが。
- 5つ目の表現はあってもいいと思うのですが、それよりも、単位を移行することについて、より明確に説明するものになっている必要があると思います。
- 子どもたちの頑張りを認めていることが分かりつつ、大人になったら別なことも勉強してほしいというメッセージについて、1枚で汎用性を持たせようとしたために、焦点がぼやけたのではないのでしょうか。小学生は保護者や先生と一緒に相談しながら見るので、接続方法についての紙のほかに、運用に関わるQ&A集のようなものがあれば、単位が移行できることは大人が説明してくれると思います。「ジュニアカレッジそのものについてのメッセージ」、「移行措置をしていることについてのメッセージ」、「実際にどのように運用しているのかという手引き」があって、更にWeb上でダウンロードできるといいと思います。  
また、「カレッジ生」と「学生」という語が混在しているのを統一したり、文章が行政職員向けのような硬い感じがするので、一般の方や保護者向けに、もう少し柔らかい表現にしてはどうでしょうか。
- 「ジュニアカレッジ生へのメッセージ」は、「今まで頑張ってきた皆さんへ」という表現にするといいのではないのでしょうか。
- 表題に「ジュニアカレッジ生へのメッセージ」と書いてありながら、最後に「ジュニアカレ

ッジ生になりましょう」となっています。現在のジュニアカレッジ生として単位が移行できることになったというお知らせと、そのような制度があるのでジュニアカレッジ生になりましょうという話は分けたほうが良いと思います。

- 同じ文章に混在させて伝えるよりは、分けたほうが良いという御意見が多いようです。
- 単位が移行できるということを伝えることが必要だと思うので、Q&Aのように、「このようなどときには、こうなる」と示されていたほうが、保護者にとっては分かりやすいと感じました。
- 現在のジュニアカレッジ生に向けたものに絞ったほうが良さそうですね。
- 2つお考えいただきたい点があります。

3枚目の1番について、〈期待する効果として〉と四角で囲ってあるのですが、上の行に書かれている「小中学生のさらなる『学び』への意欲へとつなげます」というのが効果なのではないかというのが1つ。

2つ目は、四角で3つ箇条書きになっているうちの1番目と2番目は同じようなことを言っているのではないのでしょうか。

まずは、学習単位を接続する。そのことによって期待している効果が3つあって、小中学生自身が更にやる気になり、異世代間が交流することによって学びが広がり、北海道全体の生涯学習社会の広がりをもたらしていくという感じではないのでしょうか。効果やねらいをもう少し整理して提示してほしいと思います。

- これも意見ですが、基となる文章1枚目で、それをお伝えするのが2枚目と3枚目だとすると、3枚目の1番「接続の考え方」に相当する部分が基の文章の中には無い。原案の中に考え方の基本を作っておく必要があるのではないのでしょうか。その上で分かりやすく、小中学生向けや保護者向けとして展開して書き換えれば良いと思います。原案では、タイトルが「接続方法について」となっているので、本来は「接続方法及びその考え方について」となるのではないのでしょうか。
- 1枚にまとめようと工夫したのは、良く分かります。しかし、見る側の子供たちや保護者は、イメージしにくいのではないのでしょうか。これまで出ているペーパーはそのまま使い、それとは別に、ジュニアカレッジで学び、一般にどう接続し、どのような勉強をしてどのような力がつくのかということ、例えばイラストを入れるなどして、イメージしやすくしたら良いのではないのでしょうか。

ところで、ジュニアカレッジには、主にどういう子どもたちが来ているのでしょうか。

- 主に、道立青少年体験活動支援施設の事業に参加してくる小学生や中学生です。
- もともとモチベーションが高いと思われるそのような子供たちが、ジュニアカレッジに参加した際のアンケートのデータは、ありますか。
- 各施設で取っております。
- それが集約されていて、定量的なデータとなっていれば、どのような答え方をすればいいか分かるのではないのでしょうか。意欲的に学んでいる子供たちに対しての文章を作るのか、あまり好奇心が強くない子も対象にして作るのか、データがないので分からないのです。双方を対象として作っているというのであれば、それはそれでいいのですが、子供たちの状況とマッチングしているかどうか分からないので、この文章が適切なかが分かりません。アンケート

一トの満足度次第では、満足度が低い部分は強化する、満足度が高い部分は更に推進するというように、提供者と受講者の満足感が一致することで、共感が生まれます。共感とイノベーションが大事なのに、共感が薄いのかも知れません。子供たちの声を聞いてみたい気がします。将来的に北海道や日本を支えていく子たちですから、リベラルアーツ的に小さい時から大学に及ぶまで勉強できるような人になってほしいという、大きな期待があります。道民カレッジは素晴らしいシステムだと思います。1枚のペーパーに情報を詰め込みすぎて分かりにくくなっていると思うので、「このような勉強をしたら、このようになった」ということが、よりイメージしやすい、自分で見てストーリーが描けるようなものにしてほしいという感想です。前回と比べると、相当改善されていると思います。

- いろいろ御意見をいただきましたので、これを参考に修正を加え、ジュニアカレッジ生や関係の皆さんに伝えていただきたいと思います。

#### イ サーバー更新に伴う新ホームページについて

- (概要やスケジュールについて、資料2とスクリーンへの実写に基づき説明。)
- 今の説明に対して、御意見があればお願いします。
- 対象者別に探すという欄で、一般成人が当てはまる場所がないのですが、どのような括りで作られているのでしょうか。
- 当センターで持っているデータベースから、デザイナーが考えてくれたものであって、実際の括りは今後考えていくことになっています。
- リンク先には、どのようなものがあるのですか。
- それぞれの対象者に合った、データベースのリンクが表示されます。
- ユーザーの希望から考えると、場所やテーマでも選べるといいのではないかと思います。様々な事情で目的別と対象者別から選べるようになってきていると思うのですが、考えていく上でユーザーからの視線を意識しておく必要があると思います。
- 場所から探すことは非常に難しいので、今の御意見を参考にしながら、2次情報で場所が分かるなどの工夫をしていきたいと思います。
- 初めて道民カレッジにアクセスする人にとっては、「講座をさがす」の下にある「道民カレッジの連携講座を申請したい」や、左上の「連携講座随時受付中」を、講座を受けたいと思っている一般の方自身に対してのことだと思い、分かりにくいのではないのでしょうか。例えば「連携講座を提供したい」とするなど、誤解が生じさせない工夫が必要だと思います。
- 講座を探したい人にとっては、講座にたどり着くまでの階層が深いと探しにくいようです。講座を探したい方は、キーワード検索を利用することが多いので、「講座をさがす」の場所にキーワード検索窓があると良いと思います。また、連携講座の申請は、下の方や次のページなどでもいいのではないのでしょうか。
- 「講座をさがす」の場所に検索窓を実装することが可能かどうか、検討します。
- 連携講座の申請が上の方にあることについては、学ぶ側と提供する側を分けるのではなく、互いに提供し合うというという意味で利点もあるのではないかと思います。分けることによって分かりやすくするという考え方もあるので、検討してほしいと思います。
- 「連携講座」という言葉の意味そのものが分からない方が多いと思うので、説明を載せたほ

うが良いと思います。

- 「道民カレッジの仕組みに講座を提供してくれませんか」という呼びかけですね。
- その説明があれば、最初の部分にあってもいいのではないかと思います。
- 連携講座の表示の下の部分に、初めての人でも分かるように、連携講座とは何かということについての説明が加わっているといいということですね。
- 更に言うと、「講座をさがす」は「受講したい、学びたい」に、「連携講座を申請したい」のところは「教えたい、講座を提供したい」として、2つの括りに単純化した見出しの立て方をしたらどうでしょうか。
- 真ん中にある「学びたい」とか「連携講座を申請したい」という言葉が、左側のメニューと揃うといいのではないかと思います。また、道民カレッジのホームページを閲覧される方を、講座を探したい方か、講座を提供したい方の2つに大きく分けて、どちらかというところを探したい方がメインのような気もするのですが、探す側は高齢の方が多いので、現状としてWEBサイトを利用するのは申請する側の利用率が高いという話を伺っております。いずれにしても、2つの大きな括りがあるって、学びたいということと申請したいということの文言を適切にして配置をして、それぞれの目的を持った方々にとって分かりやすくなると良いということと、学んだ人が申請したり、申請した人が学んだり、相互に連携できるようになっていけば良いと思います。
- 「道民カレッジについて」のメッセージの中に、講座を受ける側に対しての言葉だけではなく、講座を提供し合うことで学び合う仕組みが、道民カレッジの特徴だということを示してほしいと思います。また、検索窓の件は、是非ご検討ください。アイコンは最近の傾向からしてゆるキャラが好まれるので、柔らかいもののほうが良いでしょう。ユーチューブの利用については良いと思うのですが、コンテンツブロックをしていないと不適切な広告やリンクが出てくることがあるので気を付けてほしいと思います。SNSも運用に気を付けながら、是非活用を続けてほしいです。
- 全体的に見て、デザインも良くなり、シンプルになって、好印象なホームページになってきたと思います。しかし、まだ行政用語的な言葉が多いので、噛み砕いた言葉で表現してほしいものです。どうしても硬い言葉を使わなければならないものについては、短い言葉で説明しづらければ、マウスオーバーの技術を使ってポップアップで説明が出てくるようにすると、親しみも出て良いと思います。

また、「対象者別」というのは「課題別」ということなのかも知れません。道の生涯学習等の一連の計画による対象者の区分による道の事業との整合性をもたせ、それを柔らかい言葉で表現すれば検索しやすくなると思います。ピックアップのバナーから入っていきけるのも良いと思います。道立図書館は全国に先駆けたビジネス支援を行っていて、高い評価を得ています。文化財や博物館、首長部局も含めた、道の他の社会教育施設のバナーもあると、北海道の良さが更に理解されることに繋がると思います。

3枚目のセンターについての部分ですが、「～について」よりは「～の御案内」のように、より親しみやすい表現になるといいと思います。「事業と研究資料」については、事業は今受講したい人向けに、研究資料はアーカイブという形で分けたほうがいいのではないかと思います。できれば、日付をクリックすれば出る等のような形でも良いので、推進センターの事業

カレンダーをつけてほしいです。

- とてもシンプルになって素晴らしいと思います。アイコンは、かわいいもののほうがいいと思います。小学生でも中学生でも使えると思います。高齢の方には少し難しいと思うので、使い方が分かる説明を少し加えると良いと思います。視聴覚センターのページが非常に分かりやすく良いと思うので、そのようなイメージで、先ほどのメッセージを作ると子供たちがイメージしやすくなると思います。申請のページについては、硬いので、分かりやすい言葉に換えれば良いと思います。ラインを引いて区別化するなど、ちょっとした工夫で改善できるのではないかと思います。
- ホームページについてもたくさん御意見をいただきましたので、参考にさせていただきたいと思います。

## (2) 報告

### ア 附属機関の見直しについて

- (内容について、口頭説明。)
- 今回の報告に対して、御質問等があればお願いします。
- 何か問題があって、変えることになったのですか。
- 恒常的な会議については、条例で定める必要があるという判決が他県で出たため、それに伴って道も見直しを図ることになり、条例で設置している北海道生涯学習審議会の中に総合して審議していただくよう検討を進めてまいりました。

今日の議題は以上ということになりますが、何か委員さんからありますか。なければ、本日の議事を終了いたします。